広報
駒門
KOMAKADO

発行所
駒門自衛隊協力会
事務局：富士岡支所
TEL 0550－87－0976
裾野市自衛隊協力会
事務局：裾野市役所
TEL 055－995－1874

連絡所
駒門駐屯地広報
〒412－8585
御殿場市駒門5－1
TEL 0550－87－1212

印刷所
エビスLLC
〒412－0021
御殿場市二枚橋312－1
TEL 0550－70－0022

第51回富士登山駅伝競走大会



２０２６機甲教導連隊チーム


襷を受け継ぐ走者

令和八年八月二日（日）、秩父宮記念第五十一回富士登山駅伝競走大会が開催された。

駒門駐屯地所属の機甲教導連隊から一チームが参加し、各区間を力走した。北は北海道、南は鹿児島県から、一般の部七十七チーム、自衛隊の部二十七チームの合計百四チームが、身体の限界に挑む過酷なレースを繰り広げた。機甲教導連隊チームについては、自衛隊の部十五位の成績を収めた。昨年の十七位より順位を上げ、選手達は互いの健闘を称えつつ、また、今回の成績に、満足することなく、更なる躍進を決意し、第五十一回大会の幕を閉じた。

清水マリンフェスタ2026


護衛艦「はるさめ」と


インタビューを受ける広報幹部

令和八年八月一日（土）、第七十七回清水みなとまつりのイベントとして行われた、清水マリンフェスタ二〇二六において、機甲教導連隊（機動戦闘車中隊）が参加し同中隊が保有する一六式機動戦闘車の展示・説明を実施しイベントを盛り上げた。

来場者は、普段見慣れない自衛隊の装備品に興味深々で一六式機動戦闘車の乗員に質問を投げかけていた。

駐屯地は装備品の展示を通じて、引き続き自衛隊に対する理解を醸成する。

国際活動教育隊
エチオピアPKOセンター長研修対応



エチオピアＰＫＯセンター長
ゲトゥ・タイエ大佐

令和八年七月七日（火）エチオピアＰＫＯセンター長ゲトゥ大佐の来訪を受け、エチオピアＰＫＯセンターの概要や国際平和協力活動等に関する意見交換等を実施した。意見交換では、国際平和協力活動等に関する知識や経験を共有するとともに、人材育成や教育訓練の現状について活発な議論を行い、相互理解を深めた。

今回のゲトゥ大佐の来訪を通じて得られた知見を今後の課程教育及び練成訓練支援に反映し、国際平和協力活動等を担う人材の育成に活用するとともに、今後も関係機関との連携を一層強化し、信頼の醸成につなげていく。

機甲教導連隊
令和八年度新隊員後期教育


炎天下の穴掘り


暑さに耐えて頑張る新隊員


やり遂げた30名の同期


乗車用意！乗車!!

連隊は、令和八年七月六日（月）から同年九月十日（木）までの間、新隊員後期教育を実施した。新隊員達は本教育において、戦車等の構造機能及び整備、戦車等に搭載する火器の取扱い操作や装填手としての動作について修得するとともに、教育隊長（副連隊長・徳永二佐）の要望事項である「学ぶ姿勢」「同期との絆」のとおり、同期三十名で支え合い切磋琢磨し、全ての教育を修了した。大きく成長した新隊員達は、九月十日（木）に修了式を迎え、晴れて機甲科隊員となり、大きな期待を胸にそれぞれの部隊に旅立っていった。



駒門駐屯地業務隊
令和八年度自衛隊統合防災演習参加



佐川急便と連携した補給品集積


子の預かり支援

令和八年七月二十一日（火）から二十四日（金）までの間、業務隊は「令和八年度自衛隊統合防災演習」に参加し、「拠点駐屯地」を開設・運営するとともに、プッシュ型支援のための緊急調達や佐川急便と連携した各種補給品の集積要領等を演練して、南海トラフ地震対処時に必要な能力の向上を図った。また、本訓練により明らかになった問題点を把握する等、今後の活動の資を得た。

業務隊は、引き続き駐屯部隊等が安心して任務を遂行できる環境構築に努めていく。

第一高射特科大隊
令和八年度対空実射訓練検閲


近ＳＡＭの射撃


高射特科大隊と直接支援隊

大隊は、令和八年七月三十日（木）から同年八月十七日（月）までの間、静内対空射撃場（北海道）において令和八年度近ＳＡＭ及び短ＳＡＭ対空実射訓練検閲を実施した。

本訓練検閲において、指揮情報中隊（近ＳＡＭ）及び高射中隊（短ＳＡＭ）の模擬実射、射撃準備及び対空実射に係る練度を評価・判定して、首都圏防空における作戦遂行能力を向上させた。

各隊員は、昨今の巡航ミサイル（ＣＭ）や無人航空機（ＵＡＶ）等経空脅威の趨勢を踏まえた射撃要領を段階的に演練し、要撃成功の成果を得た。

高射直接支援隊

対空実射訓練検閲同行支援

高射直接支援隊は、令和八年七月三十日（木）から同年八月十七日（月）までの間、静内対空射撃場において、第一高射特科大隊が受閲した、令和八年度対空実射訓練検閲の同行支援を実施した。酷暑の中、整備所要が発生する都度、迅速正確に整備を実施し、第一高射特科大隊の対空実射訓練検閲、任務達成に貢献した。


整備をする隊員


大隊長よりメダルを授与された隊員

富士教育直接支援大隊駒門派遣隊

大隊長交代に伴う初度巡視

富士教育直接支援大隊駒門派遣隊は、令和八年八月四日（火）新着任大隊長　海野二佐の初度巡視を受けた。

巡視では、整備支援態勢から生活環境にいたる隊の現状を確認していただくとともに、駒門派遣隊の配置に際して駐屯地各部隊から各種の協力を受けたことを説明しご認識していただいた。この際、整備員にも気さくにお声掛けいただき、皆、緊張しつつも喜んで対応していた。

隊は、新大隊長　海野二佐のご指導のもと、大隊長要望事項「信頼・信念・自信」を実践し、引き続き機甲教導連隊への整備支援に邁進していく。


営内隊舎を視察する大隊長


整備工場の現況を報告する派遣隊長

富士燃料出張所

補給整備能力向上訓練

富士燃料出張所は、令和八年七月六日（月）から十七日（金）に、燃料地域（野積み場）において補給整備能力向上訓練を実施した。

本訓練には、出張所長以下二十名が参加し、フォークリフトの基本的動作及び安全管理の再認識を図るとともに、狭隘路での荷役作業や実際の補給所交付を想定した大型トラックに対するドラム缶六本の積載練成訓練を実施して、所員のフォークリフト操縦能力と補給能力の向上に努め、支援任務完遂にまい進する。


ドラム缶を効率的に積載する隊員

富士地域援護センター

令和八年度静岡県自衛隊合同企業説明会開催

静岡地本（本部長 糸賀正彦一空佐）は、七月二十九日（水）に静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにおいて、「令和八年度静岡県自衛隊合同企業説明会」（一般財団法人自衛隊援護協会東京支部主催）を支援した。参加した隊員（陸海空自衛官計二十七名）は、参加企業（七十五社）の内、希望するブースを訪れ、企業採用担当者の懇切丁寧な説明に真剣に耳を傾け、職務内容や福利厚生について理解を深めた。

また、退職自衛官を雇用していただいている企業の採用担当者からは、「非常に真面目で、一生懸命キャリアを積んでくれています。興味を持っていただいた隊員がいましたら、今後もぜひ採用したいです。」といった好印象の意見が聞かれ、会場は、再就職を希望する参加隊員と採用を勝ち取りたい企業採用担当者の熱意で大いに盛り上がった。


説明会場の様子


説明に聞き入る隊員たち

転入指揮官紹介

第１高射特科大隊長
第一師団司令部（練馬）から
２等陸佐　飯野　雄司



第305基地システム通信中隊駒門派遣隊
第一〇四全般支援大隊（朝霞）から
２等陸尉　佐藤　陽平



第128地区警務隊駒門連絡班長
第一二八地区警務隊本部（富士）から
２等陸尉　関根　章郎



転出指揮官紹介

■第一高射特科大隊長
二等陸佐　冨永　麻美
転出先：中央業務支援隊（市ヶ谷）

■第三〇五基地システム通信中隊
駒門派遣隊
二等陸尉　牧内　憲三
転出先：第六通信大隊（神町）

■第一二八地区警務隊駒門連絡班長
二等陸尉　下田　滝士
転出先：第一二九地区警務隊武山派遣隊（武山）

定年退官予定者

■駒門駐屯地業務隊
一等陸尉　本多　敬範
令和八年十月八日（木）

准陸尉　糸賀　登
令和八年十月九日（金）

陸曹長　山口　兼宏
令和八年十二月五日（土）

■機甲教導連隊
一等陸曹　下地　勝
令和八年十一月三日（火）

陸曹長　勝亦　達哉
令和八年十一月十二日（木）

陸曹長　深田　良平
令和八年十一月二十一日（土）

陸曹長　北村　努
令和八年十二月三日（木）

陸曹長　伊東　裕高
令和八年十二月十一日（金）

■富士地域援護センター
准陸尉　永井　一也
令和九年一月五日（火）

駒門駐屯地公式インスタグラム

